

# ほ場整備を契機とした収益性向上と地域活性化（福島徳下地区）

- 生産性の高い大区画ほ場の造成と農地集積により、効率的な農業経営を確立。
- 自然との共生をイメージする「なまずシンボルマーク」を活用して地域農産物のブランド化を目指す。



＜ほ場整備の実施＞  
経営体育成基盤整備事業  
【福島徳下地区】  
受益面積 A=93.7ha  
工期 H23～H28予定  
事業費 15億円

## これまでの取組

- 生産性の高い大区画ほ場を造成。
- 水路や田んぼの生き物調査や幹線排水路になますが遡上できる魚道を設置。
- 地域でなまず米のシンボルマークを作成。
- ビオトープの造成



## 今後の取組

- ビオトープ完成により、都市住民や子供たちの食育、環境教育の場として活用していく。
- ビオトープ隣接田に「なまず」を遡上させ、「なまず米」として生産販売する。
- 農業普及振興室と連携し、地域経営を視野に入れた検討を進める。

## 目標

- 水稻の生産コスト節減並びにんにく等畑作の高品質安定生産による農業経営の確立
- 自然との共生をイメージする「なまずシンボルマーク」を活用した地域ブランドの育成

ビオトープ

